

資料3【改訂1】「ハレルヤ」と呼ばれる声を訪ねて

1. 「ハレルヤ」とは？

一般に「ハレルヤ」は、喜びや感動などの表現と受け止められています。それはそれで間違いではありませんが、その喜びや感動の根底にあるものを知っていただきたいです。

「ハレルヤ」は、アーメン、ホサナなど共に、キリスト教に残る代表的なヘブライ語の一つで、ヘブライ語の〈ハルルー・ヤー〉、「主を賛美せよ」が元になっています。

← 右から左へ読みます ←

הלל יהוה

(固有名詞) (動詞命令形)

← 右から左に読みます ←

ラテン語などでは、ハレルヤの語頭の h を発音せずアレルヤと言い、カトリック教会ではこの「アレルヤ」を、正教会では中世以降のギリシャ語・教会スラヴ語を反映して「アリルイヤ」と発音します。

2. 「ハレルヤ」と呼ばれる声を訪ねて

聖書が「ハレルヤ」と呼ばれる時の動機を探求して参ります。そこで「ハレルヤ」を新改訳 2017 で検索すると、詩篇で 24 カ所（ヘブライ語聖書と同じ）と、新約聖書では黙示録の 4 カ所に限られています。なお、口語訳聖書は、詩篇の「ハレルヤ」を全て「主をほめたたえよ」と訳しており、検索結果は黙示録の 4 カ所だけです。

2.1 詩篇

各篇の冒頭に出てくるのは 10 回（詩 106, 111, 112, 113, 135, 146, 147, 148, 149, 150 篇）。

末尾には 13 回（詩 104, 105, 106, 113, 115, 116, 117, 135, 146, 147, 148, 149, 150 篇）。

途中に出てくるのは詩 135:3 のみです。

また、詩 113 ～ 118 篇はエジプトのハレルとも呼ばれ、過越祭に歌われており、主の晩餐の前後で歌われた讃美歌（マタイ 26:30、マルコ 14:26）はこのハレルであったと推測されています。

詩 104:35 罪人らが地から絶え果て悪しき者どもがもはやいなくなりますように。わがたましいよ【主】をほめたたえよ。ハレルヤ。

この詩篇は、創世記 1 章の創造物語を詩的に表現し、同時に悪が完全に消滅する日を望みながら、自然と歴史を摂理される創造主をハレルヤと賛美しています。

詩 105:45 これは彼らが主のおきてを守りそのみおしえを保つためである。ハレルヤ。

直接的には、バビロン捕囚から解放され国家再建にとりかかった人々を励ます詩篇。

① 出エジプトの道中における神の恵み深い数々の御業は、神がアブラハム契約を誠実に履行された故です。

※アブラハム契約 創 3:15 で暗示されていた恵みの契約ですが、アブラハムに至って明らかになった（創 17:2-7）のでこう呼ばれ、さらに、アブラハムの後の子孫を含めて結ばれていることから「永遠の契約」とも呼ばれます。この契約に関しガラテヤ 3:29 は「異邦人でもキリストを信じた者はアブラハムの子孫である」と明言しています。ですので、私たちキリスト者はアブラハム契約の内に生かされています。それ故、詩篇記者の「ハレルヤ」は現代を生きる私たちの「ハレルヤ」でもあります。

②そして「主は、これらを回想する私たち神の民が主のおきてを守りそのみ教えを保ち続けるよう励まして下さってます。ですから御言葉に聴従する私たちも主を誉め讃えずにはおられない、「ハレルヤ」です。

詩 106:1 **ハレルヤ**。【主】に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。

詩 106:48 ほむべきかなイスラエルの神【主】。とこしえからとこしえまで。民はみな「アーメン」と言え。**ハレルヤ**。

この詩篇は、エジプトでの奴隷状態から解放されたにも関わらずバビロン捕囚に至る迄の、つまり神の民の【これ迄】の不信仰・不従順、忘恩の罪を告白しながら、【永久の】神の恵み深さ、偉大さ、永遠性の告白と同時に、自分の罪を告白し悔い改めて心底から「ハレルヤ」と叫んでいます。
これこそ聖書的信仰に生きることのさいわいです。

詩 111:1 **ハレルヤ**。私は心を尽くして【主】に感謝をささげよう。直ぐな人の交わり主の会衆において。

この詩篇における「ハレルヤ」は、かつて神の民の為に為された神の御業【過去】の延長線上に、【今】自分たちがいることを信仰告白しての「ハレルヤ」です。

私たちの「ハレルヤ」も、永久に変わることがなく契約を履行されるお方への信頼から発せられる、客観的で冷静な「ハレルヤ」です。主観的な感情から出たり、クリスチャンが交わす挨拶の言葉ではありません。

詩 112:1 **ハレルヤ**。幸いなことよ【主】を恐れその仰せを大いに喜ぶ人は。

詩 112:4 直ぐな人たちのために**光は闇の中に輝き昇る**。主は情け深くあわれみ深く正しくあられる。

詩 112 編とは対照的で、バビロン捕囚から解放された民と詩篇記者が、【今】の信仰を土台として自分たちの【未来】を望み見て「ハレルヤ」と叫びます。

そして、主イエスは時至って私たちの元に来て、「あなたたち…は、さいわいだ！」と祝福して下さいました。

4 節の「光は闇の中に輝き昇る」から、

ヨハネ 1:4-5 この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。／光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。

この御言葉と、よみがえられた主イエスを思い起こしませんか。この主イエス・キリストによって、罪の支配と死から解放された私たちも「ハレルヤ」と声の限り主を誉め讃えようではありませんか。

詩 113:1 **ハレルヤ**。【主】のしもべたちよほめたたえよ。【主】の御名をほめたたえよ。

詩 113:9 主は子のいない女を子を持って喜ぶ母とし家に住まわせてくださる。**ハレルヤ**。

主なる神の崇高さと弱く低い人々に対する主のあわれみと恵み、人間の具体的な生活あるいは歴史に積極的に介入して下さいる神を覚えての「ハレルヤ」です。9 節はサムエル記上 2:8 のハンナの祈りを引用して神の民に対する主のあわれみと祝福を「ハレルヤ」と歌ってます。

詩 115:18 しかし私たちは【主】をほめたたえる。今よりとこしえに至るまで。**ハレルヤ**。

この詩篇は、バビロン捕囚中ともバビロンから解放され故郷に帰還した直後の賛美とも言われます。彼らは周囲から敵意とあざけりを受け、命が脅かされました。しかし彼らは、自分たちの弱さを自覚しつつも主に拠り頼み、「自分たちではなく御名のために」、しかも「今よりとこしえに至るまで」と、主の栄光を求めています。

す。そのときどきの目に見える現実や自分たちの可能性を遙かに超越した神への「ハレルヤ」です。

同様に、主イエスへの信仰を告白して死と滅びから解放された私たちも、様々な誤解や中傷を受けることがあります。しかし私たちも、今の目に見える現実や人間の可能性を遙かに超越した神への「ハレルヤ」、これを歌いましょう！

詩 116:19 【主】の家の大庭で。エルサレムよあなたのただ中で。ハレルヤ。

詩篇記者は重い病気で苦しんでいたようですが、「私は主を愛している。【主】は私の声私の願いを聞いてくださる」で始まり、死の恐怖や絶望的な苦悩から救い出して下さった「ハレルヤ」で結ばれます。私たちの主は、これ程の信仰を与えて下さるお方です、「ハレルヤ」。

詩 117:2 主の恵みは私たちに大きい。【主】のまことはとこしえまで。ハレルヤ。

詩篇中最も短い詩篇ですが、

(1) [賛美の動機] : 自分たちに対する主の恵み深さは、世界の救いのためであることを知って

(2) [賛美の勧め(賛美への招き)] : 自分たちの使命として全世界の民を主の礼拝へと招きながら「ハレルヤ」と賛美されています。

この讃美歌に欠かせない二つの要素を、この詩篇 117 編は歌っているのです。

そして、この詩篇は「ハレルヤ」で終わっておらず、マタイ 28:16 以下に記された復活の主イエスの言葉

マタイ 28:19-20 「…あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、／わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

となり、初代教会から始まった異邦人伝道(福音宣教)へと結実していきました。

福音宣教がキリスト者に託された使命であることは、讃美歌 150 番の原歌詞第 6 節で、「Now He bids us tell abroad」とストレートに歌われています。

この詩篇の「ハレルヤ」は、聖書信仰に生きる信仰者たちと福音宣教に生涯をささげた伝道者たちの「ハレルヤ」であると言えます。

詩 135:1 ハレルヤ【主】の御名をほめたたえよ。ほめたたえよ【主】のしもべたち。

詩 135:3 ハレルヤ【主】はまことにいつくしみ深い。主の御名にほめ歌を歌え。その御名は実に美しい。

詩 135:21 シオンで【主】がほめたたえられるように。エルサレムに住まわれる方が。ハレルヤ。

「ハレルヤ」との呼びかけで始まり、旧約聖書随所のテキストをモザイクの様に取り入れ、創造と救済(選び)の恵みを告白し、神の民に委ねられた「世界の祝福の基礎としての務め」を自覚して「ハレルヤ」で結ばれます。

詩 146:1 ハレルヤ。わがたましいよ【主】をほめたたえよ。

詩 146:10 【主】はとこしえに続べ治められる。シオンよあなたの神は代々に続べ治められる。ハレルヤ。

神を助け手として信頼する者の「ハレルヤ」。神の民は人に頼ることの儚さ(はかなさ)を知っており、いかなる時も主の力と守りに身を委ねて良き業に励むのだ、「ハレルヤ」と歌ってます。この詩篇は、地上を歩まれた主

イエスの御姿を彷彿とさせますが、詩 146:7 の「…【主】は捕らわれ人を解放される」は讚美歌 150 番の基調にもなっています。

詩 147:1 **ハレルヤ**。まことにわれらの神にほめ歌を歌うのは良い。まことに楽しく賛美は麗しい。

詩 147:20 主はどのような国々にもこのようにはなさらなかった。さばきについて彼らは知らない。**ハレルヤ**。

バビロン捕囚から解放された神の民に対する主の特別な恵みと自然界における主の力(特別恩寵と一般恩寵)、世界の統治等を織り混ぜて「ハレルヤ」と歌います。1 節はまさに私たちのことです。

詩 148:1 **ハレルヤ**。天において【主】をほめたたえよ。いと高き所で主をほめたたえよ。

詩 148:14 主は御民の角を上げられた。主にある敬虔な者すべての賛美を主の近くにいる民イスラエルの子らの賛美を。**ハレルヤ**。

バビロン捕囚から解放され都を回復できた主の民が、全被造物に向かって共に「ハレルヤ」と主を賛美するようにと呼びかけてます。バビロン捕囚後のエルサレム復興は、終わりの日に於ける新しい天地再創造のひな形であり、黙示録を指し示していると言えましょう。

詩 149:1 **ハレルヤ**。新しい歌を【主】に歌え。敬虔な者たちの集まりで主への賛美を。

詩 149:9 また書き記されたさばきを彼らの間で行うため。これは主にある敬虔な者すべての誉れである。**ハレルヤ**。

神の支配の勝利の喜び、神の民に対する主の顧みと繁栄の回復が「ハレルヤ」と歌われると同時に、神に反逆し続けた敗北した人々が聖書に記された御言葉のままに裁かれることをも「ハレルヤ」と歌われます。

詩 150:1 **ハレルヤ**。神の聖所で神をほめたたえよ。御力の**大空**で神をほめたたえよ。

詩 150:6 息のあるものはみな【主】をほめたたえよ。**ハレルヤ**。

最後の詩篇は詩篇全体の頌栄です。1 節と 6 節の[**הַלְלֵהּ**]「主をほめたたえよ」以外にも、各節に「彼(神)を「ほめたたえよ」[**הַלְלֵהּ** (動詞命令形)]が現れています。

天と地が一つとなって天地創造の聖なる目的が達成されることが、地上最大の聖歌隊によって「ハレルヤ」と歌われます。

1 節の「大空」は私たちの頭上に広がる空をイメージしやすいですが、英語訳では **firmament heavens** と訳されており **sky** ではありません。1 節の「大空」は、

創世記 1:1 「はじめに神が天と地を創造された」の「天」

イザヤ 40:26 「目を高く上げて…見よ」と主が言われた「天」

のことです。

☆詩篇20カ所の総括

以上の詩篇を総括すると、次の様になります。

□創世記での天地万物の創造(スタート)から黙示録が記す再創造(創造の完成)迄が視野に入っています。

□創造の完成に至るまでの、光と闇との戦いが詩的に表現されています。

□神の御性質 = 永遠性、不変性、人間に誠実かつ徹底的に関わって下さり、契約を履行される。

そして、詩篇 150 編を最後に「ハレルヤ」の叫びは一旦沈黙しますが、主イエス・キリストによる宣教活動、十字架上で贖いの死、よみがえり、昇天、ペンテコステ、そして弟子たちによる福音宣教を経た聖書最後の巻、黙示録 19 章で、ビッグバンを想起させる爆発的な「ハレルヤ」コーラスが展開されるのです。

2. 2 黙示録19章

ἀλληλουϊά (ギリシャ語) ハレルヤ、「主を賛美せよ」という言葉は、新約聖書では黙示録 19 章のみです。

黙示録 19:1 その後、私は、大群衆の大きな声のようなものが、天でこう言うのを聞いた。「ハレルヤ。救いと栄光と力は私たちの神のもの。」

19:3 もう一度、彼らは言った。「ハレルヤ。彼女が焼かれる煙は、世々限りなく立ち上る。」

19:4 すると、二十四人の長老たちと四つの生き物はひれ伏して、御座に着いておられる神を礼拝して言った。「アーメン。ハレルヤ。」

19:6 また私は、大群衆の声のような、大水のとどろきのような、激しい雷鳴のようなものがこう言うのを聞いた。「ハレルヤ。私たちの神である主、全能者が王となられた。」

1 節、〈救いと栄光と力は私たちの神のもの〉との「ハレルヤ」は、「“バビロン”がもたらす名声と富、快樂こそ栄光と力の証しである」かの如き世界を完全に覆された神への「ハレルヤ」で、やがて私たちも聞くのです。

※黙示録でのバビロンは、サタンとその支配下にあつて神に敵対した世界的な力の暗喩です。

3 節、〈彼女が焼かれる煙は、世々限りなく立ち上る〉との「ハレルヤ」は、神がバビロンとの戦いを完全勝利に終わらせ全く別の新しい時代を始めて下さったことへの「ハレルヤ」です。

6 節、この「ハレルヤ」は、

☆今ここに集う私たちばかりか古今東西のキリスト者が御使いたちと一緒にの「ハレルヤ」です。

☆サタンとその配下のあらゆるものが消え去った、神の御国の完全な姿を見ての、

☆〈大水のとどろきのような、激しい雷鳴のようなもの〉と表現される如く、天と地を揺り動かす感動と力に満ちた、

ハレルヤ・コーラスです。

最後に、6 節に続く 7 節の御言葉に聞いて話を締めくくります。

19:7 私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。子羊の婚礼の時が来て、花嫁は用意ができたのだから。

子羊(私たちの主イエス・キリスト)と花嫁(神の民、キリストの教会)との婚宴の用意が出来ている。だから〈私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう〉と主イエスは言っておられます。

「ハレルヤ！」 さあ、私たちも、あなたも、声高く主を誉め讃えてイースターを祝いましょう。